



【第二期中期計画】

社会福祉法人わかば会は、障がいを持つ子供たちの未来ため、志を同じくする親たちが、共同作業所設立を目指し、1983年9月「わかば会」としてスタートを切りました。

その後、1997年10月に社会福祉法人として認可され、1998年7月には知的障がい者通所授産施設「わかば共同作業所」が開所。その後、「わかば第2作業所」の開設やグループホームの整備、新居浜市からの障がい者支援施設「くすのき園」の移管もあり、現在では相談支援も含め複数の事業展開を行っています。社会福祉法人わかば会は、『利用者が主人公』という理念の元、地域に根差した法人として様々な方に支えられ今日まで発展してまいりました。

法改正や法人の組織規模の拡大による経営管理体制も大きく変化する中で、わかば会の法人理念を実現・継承・発展させるために目指すべき方向性を示すものとして、「第一次中期計画」を2018年4月に策定しました。「中期計画」はわかば会が長期にわたり継続的に安定した事業運営とさらに前進していくため、法人経営の強化、サービスの向上、人材の確保と定着、社会福祉法人としての責務を堅実に果たしていくことを基本として、わかば会をご利用の皆さんの未来を見据え、目指すべき方向性をより具体化していくために策定していく必要があります。

2022年4月に策定される「第二期中期計画」は、新型コロナウイルス感染拡大の対応により策定を一年間延期し、2022年度を起点とした3年間の行動目標としました。今後は「第二期中期計画」に沿って法人運営におけるPDCAすなわち計画・実行・点検・見直しのサイクルをこれまで以上に強化し、ご利用者、ご家族、地域のニーズ、社会情勢の変化等に対応し、計画策定後も柔軟な見直しを行っていただける法人として、信頼と理解を得られる法人として着実に中期計画を推進していくことといたします。

ご利用者、ご家族、地域、時代のニーズを踏まえ、法人設立の力となった障がいを持つ子供たちを持った親の想い（原点）を忘れず、ご利用者の方や地域から「信頼される法人」「必要とされる法人」「愛される法人」として、ご利用されている皆様の「生涯にわたる地域での暮らしの実現」のため、わかば会の将来の姿をみんなで創造していかなければいけません。

(2022年4月：法人本部長 白木伸也)

1. 社会福祉法人わかば会の法人理念

「利用者が主人公」 ～ひとり一人の豊かな人生を目指して～

わたしたちは、利用者ひとり一人の願いに寄り添い、活動や生活を通して、生きることを大切にします。

わたしたちは、謙虚さを忘れず常に向上心を持ち、専門的な支援が出来るよう自己研鑽に努めます。

わたしたちは、他人（ひと）とのネットワークを大切にし地域から信頼される関係づくりを目指します。

わかば会は、基本的人権を尊重し、社会のルールを守り、一社会人として社会に貢献します。

2. 基本的な方針

(1) 法人理念を継承していくために

- ①法人設立記念日に法人設立の原点を振り返ることのできる企画を毎年実施する。
- ②わかば会設立に関係した方の講演会等の実施、また各職階層研修において記念誌やその他の資料を用いて、共通理解・認識を深めていく。
- ③利用者、職員の表彰事項を、法人設立記念日に集約し表彰する。

(2) 生涯にわたる地域での暮らしの実現のために

- ①利用者・ご家族の高齢化を見据えた事業所の在り方について、各事業所単位で検討する場（PT・会議等）を設け、課題整理を行う。
- ②利用者の高齢化に対応していくために、医療機関との連携、成年後見制度の推進、看取りまでの支援、また看取り後の支援が提供できるよう法人内で検討を重ね、長期計画の策定につなげていく。
- ③くすのき園の将来的な建て替えに関して、将来像（建物、サービス内容、資金計画等）を検討し、法人全体の共通認識による草案作りを行う。
- ④わかば管轄において、グループホーム入居のニーズを定期的実施し、ニーズに応じた建設計画を具体化できるように準備を進めていく。

(3) 施設整備関係について

- ①相談機能を再編成し、法人の相談機能を建設予定地に集約する。また、研修センターや法人内の利用者が多目的に利用できるような設計を検討し、新しい多目的施設としての建設計画を進めていく。
- ②第二期中期計画において、新規グループホームを2棟（わかば管轄1棟、くすのき管轄1棟）建設し運営開始ができるように準備・立案を進めていく。

(4) 法人本部機能の充実・強化

- ①諸規程や内規事項について各事業所における課題を整理し、法人内で統一する。
- ②運営管理、事務処理、労務管理及び人事に関することを法人本部で一元管理することにより、法人内事業所間および拠点間での共通認識・共通理解を図る。
- ③ICT（情報通信技術）の普及推進を行い、支援・業務・職員研修・防災・交流等の様々な面での利便性の向上や効率化を図る。
- ④法人内のさまざまな資料やデータを整理し、管理を一元化する。
- ⑤サイバーセキュリティを強化し、安心・安全なネットワーク環境の実現を目指す。

(5) 施設経営の安定

- ①事業ごとの月例報告を定着させ、各事業からの課題を把握することにより、法人連絡会議および各事業所における運営会議において、課題に対して建設的な議論、具体的な対応が見いだせる協議ができるよう、会議運営を見直していく。
- ②月次報告書の検閲方法について検討を重ねていき、主要職員が収支状況等を正しく認識し、経営目標を数値化していくことにより、予算管理及び財務管理の強化を図る。
- ③既存事業の在り方を検討し、業務の効率化、経営力の強化を図る。（相談部門、en、グループホーム）
- ④各事業におけるの行事・企画等の計画案策定に関し、必ず収支に関する項目を設け記入させることにより、コストに対する意識付けを行う。

(6) 人事および人材確保・育成・定着

- ①求人、採用業務を法人本部で管理し、優秀な人材を確保できるよう採用活動を強化する。（教育機関との連携）
- ②法人内の職員の職階をさらに細分化し、職員にわかりやすい、向上意欲を引き立てる昇格手段を作成し法人内で統一する。
- ③研修センターと連携し、研修への積極的な受講を奨励し、受講履歴と昇格手段が連動した効果的な人材育成の仕組みを確立する。
- ④人材育成の観点から、積極的な法人内の事業所間での人事異動、および他法人との出向制度の実施を検討する。

- ⑤職員が公平公正に評価されるように、人事労務管理の在り方について検討を重ねていく。
- ⑥職員の多様な働き方（時短・子育て・介護・闘病勤務・復職・障がい者雇用・外国人雇用）を推進し、また職員の心身健康増進、時代のニーズに応じた働きやすい職場環境改善を図る。
- ⑦将来的な主要人材の育成を目的として、第二期「発芽未来プロジェクト」（仮）を発足させ、「発芽未来プロジェクト」の見直しと課題整理を行い、新たなモノの創造や法人としての長期的なビジョン（ビジョン2035）の草案作成につなげる。

（6）各種委員会の強化および外部評価実施の検討

- ①委員会活動をさらに活発にし、事業所単位から法人単位としての問題解決の意識付けを定着させる。
- ②第三者委員への報告会を実施する。（年一回以上）
- ③外部機関による第三者評価および会計監査について検討し、実施につなげる。

（7）広報活動の強化

- ①ホームページおよびパンフレットの見直しを行い、広報活動の強化、地域および求人者への情報発信を行い、内容の充実を図る。
- ②情報を捉える力、情報をわかりやすく発信する力を養成していく。

（8）防災体制の強化

- ①BCP（事業継続計画）を職員全体に周知させ、危機時において対応できる職員を育成する。
- ②広域的に防災体制の応援や協力できる法人と連携体制を検討する。

（9）地域からの信頼、必要とされる法人に

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現のため、誰もが心豊かに暮らせる地域社会の実現のために、法人として積極的に「SDGs」に取り組み、持続的な地域福祉の実現に貢献する。
- ②これまでの貢献活動（研修センター事業）の継続に加え、他法人との協力や共助の地域づくりに貢献する機会を創造する。
- ③将来的な福祉人材確保につなげていけるよう、研修センターを活用し、各教育機関との連携強化、人材への情報発信や福祉の理解促進のための機会提供等を企画実行し、福祉への関心を高める。また、積極的に実習生を受け入れ、福祉への魅力を感じてもらえるような実習計画を立案実行していく。
- ④職員の積極的なボランティア活動、地域行事への参加を支援する。

3. 各事業所ごとの中期計画概要（別添資料参照）

第二期中期計画概要（案）

名 称	わかば共同作業所	種 別	生活介護・就労継続支援 B 型
所在地	新居浜市船木甲 741-1	開 設	平成 10 年 7 月 1 日
定 員	生活介護 15 人 就労継続支援 B 型 15 人	職員数	17 人（正規 6 人・非正規 11 人）

（1）現状と課題

これまで生活介護と就労継続支援 B 型の事業内容に明確な区別を設けず支援を行ってきたが、利用者の高齢化と重度化に伴い、支援の根本的な見直しが必要になってきている。

65 歳以上の利用者（50 歳～59 歳：2 名）（60 歳～64 歳：2 名）（65 歳以上：2 名）や重度の利用者の支援を利用者に合わせ作業中心の支援から介護の視点を取り入れた支援へ変えていく時期になってきている。

支援については、これまで行ってきた作業（パン、ベーグル、内職、クリーニング）の振り返りや職員体制、支援場所、支援内容、工賃規程などについて職員間で検討し合う場が少なかった。

新しい職員が定着しなかった原因も、情報共有などコミュニケーションの問題があったと思われるため、改善に努めていかなければならない。

利用者の家庭状況も保護者の高齢化があり変化がみられる。病院受診や親の入院時の生活など生活面の支援も行う機会が増えてきている。生活の場である GH の建設も利用者のニーズに合わせ、考えていかなければならない。（利用者平均年齢：46 歳）

（2）課題解決に向けた取り組み

利用者のニーズを把握し、作業内容や支援内容、定員の見直しを行う。

職員で話し合う検討チームを作り、職員間での話を定期的に行っていき、問題を共有する。

その際、保護者、利用者へのアンケートを行い、意見を反映させる。

家庭の状況を把握し、生活支援も必要に応じて行っていく。モニタリング時に相談員とも情報を共有し、サービスが必要な時は、相談員に依頼する。

職員の定着に向けて、新しく入った職員への定期的な面談を主任が主になり行い、職員の面談も年 2 回行う。

利用者の生活の場である GH の建設に向けてもアンケートをとりながらチームで検討していく。

（3）重点項目

ケース会を定期的に行い、職員が話せる場を作っていく。

生活介護と就労継続支援 B 型の定員変更に向けて検討する。（利用者、保護者への説明）

作業場の確保（プレハブ、畳の部屋の片づけを行う）も含め、定期的に環境整備を行う。

（4）目指すべき施設像

利用者のニーズに合わせた支援が出来る作業所（安心して過ごせる作業所）

地域から信頼される作業所（自治会活動への参加・地域の清掃活動を定期的に行う）

第二期中期計画概要（案）

名 称	わかば第2作業所	種 別	就労継続支援B型・生活介護事業
所在地	新居浜市船木甲 2114	開 設	平成19年4月1日 開設
定 員	就労継続B型 15名 生活介護 15名	職員数	22人（正規10人・非正規12人）

（1）現状と課題

- ・利用者の実態に合った事業形態になっていない
- ・コロナの影響で内職が激減した。菓子の販売に利用者の方と一緒にいく機会が減った。
- ・お菓子の大量注文が入った時、工房が上手く回っていない
- ・利用者一人一人のニーズ、障害特性に合ったサービスを提供しきれていない
- ・外部から見たわかば第2作業所の特色やニーズを作業所が把握できていない
- ・新しい職員が基本を学べる機会が少ない
- ・利用者の特性や集団の規模に見合うスペースが無い

（2）課題解決に向けた取り

- ・余暇や機能維持など、主に生活面の支援をする生活介護と作業やステップアップ、菓子製造販売を主とする就労継続B型の支援を一人一人に合った支援が出来るように考え、話し合いの時間を持つ
- ・工房の計画を立てる職員を決め、お菓子の販売計画等を年度初めに立てる。
- ・各種研修の受講（職員に学びたい事柄のアンケートを取り研修委員に伝えてみる）
- ・小集団での話し合いの時間を作る
- ・利用者のニーズと人数等に見合ったスペース確保の為、まずは整理整頓、その後補助金申請など利用。

（3）重点項目

- ・利用者一人一人のニーズと特性に合ったサービスを提供出来るように職員がしっかりと話し合い計画を立てる（車椅子の方の入浴なども）
- ・お菓子製造販売計画をしっかりと立て、その他作業も開拓していく
- ・スペースや建物確保の為、先ず整理整頓をする。補助金などの活用も学ぶ。
- ・利用者の重度化、ニーズの変化による定員の見直しを検討する。
- ・看護師、現在は週一回、二時間だがこれから先もう少し回数が必要になる可能性がある

（4）目指すべき施設像

- ・利用者一人一人の将来を見据えた支援が出来る事業所（利用者一人一人の将来を考え、今必要な支援を的確に行える事業所）
- ・余暇や機能維持など、主に生活面の支援をする生活介護事業と作業やステップアップ、菓子製造販売を主とする就労継続B型事業をしっかりと確立させた事業所
- ・安心して来所してもらえる事業所
- ・地域に必要とされる事業所

第二期中期計画概要（案）

名 称	わかば会相談部門	種 別	委託・指定相談支援事業 （生活支援センターわかば） 障がい者就業・生活支援センター 事業（エール）
所在地	新居浜市萩生政枝町 2-6-42	開 設	令和4年4月1日開設
定 員	なし	職員数	10人

（1）現状と課題

- ①相談部門統合による運営の改善
- ②法人内事業所、地域の関係機関との連携、協同（生活支援センターわかば）
- ③実習受け入れ先企業の開拓と就労に向けての準備支援（エール）

（2）課題解決に向けた取り組み

- ①相談部門統合後、地域の拠り所となり得る事業所を目指す。事業所での障がい者雇用。
- ②事業所内外でのケースへのレビューやフォローアップ体制を浸透させる。
- ③就労アセスメントツール「TTAP」「BWAP」のスキル習得および活用。
一般就労障がい者ピアサポーター養成研修事業 令和3年度より3か年計画で実施。同事業を実施する県下のナカポツセンターと情報共有を図っていく。研修修了者について今後の活動の場を提供する。

（3）重点項目

- ・わかば会利用者や職員の交流拠点としての整備
- ・地域で暮らす人たちが利用し易い社会資源となるよう事業所の活動内容を要検討。
- ・多目的ルーム（サロン）を開設、また土、日、祝日の開所も検討する。

（4）目指すべき施設像

- ・関係機関または障がい児者のみならず、地域で暮らす児童から高齢者までが気軽に集える事業所を目指す。
- ・地域から信頼される事業所となり得るよう職員個々が謙虚な気持ちで且つ向上心を持ち、日々自己研鑽に努める。
- ・防災、防犯体制の整備。防災マニュアルを作成し職員間で周知、安心安全な運営を行う。

第二期中期計画概要（案）

名 称	障がい者支援施設くすのき園 （グループホームオリーブ含）	種 別	障害者支援施設 （共同生活援助）
所在地	新居浜市萩生 1834-1 他	開 設	平成 6 年 4 月 1 日開設
定 員	施設入所 60 人 短期入所 5 人 生活介護 60 人 日中短期 6 人 （共同生活援助 6 人）	職員数	63 人（正規 55 人・非正規 14 人）

（1）現状と課題

- ① 多様な人材の協同
- ② 多様な利用者の生活全般に対応できる人間性を備えた職員による介護力や支援力
- ③ 事務機能の共有と効率化
- ④ 入所施設の老朽化と建て替えに向けた準備（グループホーム 2 棟目の開設）
- ⑤ 地域との交流と社会貢献
- ⑥ 保護者との対話（親亡き後の利用者の社会的自立）

（2）課題解決に向けた取り組み

- ・ チームの在り方（役割分担、コミュニケーション、目的やルール、会議体等）を定期的に見直し、わかば会理念に沿った利用者の介護や支援の実践を通して、多様な人材の確保・定着・育成に努める。
- ・ 法人本部と連携して、会計・人事労務管理・利用請求・利用記録・業務管理・広報等の情報の共有、管理、発信を通して事務機能の効率化を行う。
- ・ 「くすのき園建替えプロジェクトチーム」を中心に施設の建替えに向けて準備する。
- ・ 福祉に携わる者として業務に限定することなく、くすのき園やわかば会を通じた社会とのつながりを持てるようにする。

（3）重点項目

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を通しての事業継続
- ・ 入所施設建て替えとグループホーム建設に向けた資金計画
- ・ 利用者の高齢化への対応（終の棲家への準備）
- ・ 「食」「趣味」「イベント」など、楽しみや彩りのある暮らし
- ・ エールや地元自治会館等を通じた人との交流や成長のための機会の場づくり
- ・ 権利擁護の推進（第三者評価・成年後見制度等）
- ・ ITC（情報通信技術）、AI の活用

（4）目指すべき施設像

入所施設として、地域の中で様々な人が集い認め合い将来への希望を抱ける場所。

第二期中期計画概要（案）

名 称	生活介護事業所[e n]	種 別	生活介護事業所
所在地	新居浜市岸の上町 1-14-37	開 設	令和元年 11 月 1 日開設
定 員	生活介護 20 人	職員数	6 人（正規 3 人・非正規 3 人）

（1）現状と課題

- ① 利用率の向上、収支状況の改善
- ② 送迎体制の改善
- ③ 身体機能維持や機能訓練の活動提供
- ④ 外出活動だけに頼らない活動提供の充実

（2）課題解決に向けた取り組み

- ① 利用定員の充足を優先課題とし、特別支援学校卒業生の積極的な受入れ（毎年 2～3 名程度）、現場実習生の受入れ（年間 2 回）、体験見学会の開催（年間 6～10 回程度）、定期的に相談支援専門員との情報交換及び地域ニーズの把握に努める
- ② 利用者増に合わせた送迎計画立案、収入増による車両の確保、助成金を利用した車両の確保
- ③ レクリエーションによる機能維持の実施、PT によるアセスメントとリハビリの計画と実施
- ④ 地域ボランティアの受け入れ、教育機関との合同レクリエーション等

（3）重点項目

* 利用定員の充足

体験見学会の開催、特別支援学校生の積極的な受入れ、相談支援専門員との連携

* サービス内容

身体機能維持や機能訓練の活動提供

* 固定資産物品購入

障がいに合わせて送迎及び外出時の車両購入

（4）目指すべき施設像

わかば会の事業所のなかでも特色を生かしたサービス提供と地域ニーズを可能な限り充足できる事業所であり、障がいのある方や地域において価値ある事業所を目指す。